

「We'll do our best !」 成田中学校女子バレーボール部



市民の ひろば

9

September

わたしたち成田中学校女子バレー部は、2年生11人、1年生14人の計25人で、学校の体育館ではほぼ毎日活動しています。

部の顧問は横尾先生と杉田先生で、わたしたちの技術が確実に上達するよう、レシーブやスパイクなどの基礎練習に時間をかけて丁寧に指導してくださいます。

また、バレーボールはチームメイトとの連携が大事なスポーツでもあり、部活動を通して友達を思いやる気持ちや自分の役割に対する責任感などを身に付けることが大事だとおっしゃいます。



タイミングを計って力強くスパイク



渡邊あき部長(2年生)
「明るい雰囲気部の部なので、皆の前向きな気持ちを引き出せるよう頑張っていきたいです」

現在、わたしたちの課題はサーブやサーブカットの精度を上げ、ボールを確実に相手コートに運ぶことです。

夏の猛暑の中での部活動を辛く感じることもありますが、少しずつでも技術の上達を実感できるのはとても嬉しく、皆がそれぞれの目標に向けて練習に臨んでいます。

3年生が引退し、今のメンバーでの最初の試合となった成田空港杯では、残念ながら2回戦で敗れてしまいました。ですが、試合を通じて部員同士の連帯感が強まり、今ではお互いを励まし合う掛け声が絶えない明るい雰囲気の中、練習に打ち込んでいます。

今後は、9月から10月にかけての新人戦で納得のいく結果を出せるよう、ベストを尽くしていきたいと思っています。

心も体も熱くなる瞬間 A-YO(ジャンベ)

わたしたちは、西アフリカの太鼓「ジャンベ」を楽しむサークル、A-YO(あーよ)です。遠山公民館で月に1回、土または日曜日に活動しているほか、太鼓まつりなどのイベントにも出演しています。

指導してくれるのは、甲斐いつろう先生です。先生は、プロバンドの伴奏を担当したりソロアルバムを制作したりと幅広く活躍するパーカッショニスト(打楽器)奏者。豊かな経験とユニークな人柄でわたしたちをジャンベの魅力的な世界へとぐいぐい引き込んでくれます。

ジャンベは、西アフリカの国々で豊作祈願



車座になって
歌声とともに



今年は公民館まつり(11月)にも参加します

やお祝いなどの儀式に登場する民族打楽器。人々の生活に今も深く根付いていて、子どもたちはジャンベのリズムとともに育ちます。胴は木製で打面はヤギの皮。独特の杯型をした太鼓です。

和太鼓と違い、ジャンベではバチを使わずに手の平で叩いて音を出します。叩く場所や叩き方によって大地を這う低音、天を切り裂く高音、その中間の音と3つの音を出すことができ、組み合わせによって何百というリズムが生みだされます。

「調和の太鼓」ともいわれるジャンベ。リズムに身を委ね、打ち手同士の心が一つになったとき最高の喜びが訪れます。互いに繰り返す音が共鳴し、不思議なことにまるで笛の音色のよう。何ともいえない開放感に包まれ、まさに心も体も熱くなる瞬間ですね。

ペット大好き

111



五十嵐 文江さん(中台)
チビ(メス)

大好きなリンゴはかんで柔らかくして食べさせています。その日の気分でかなり遠くまで散歩することも。とても人気者で、何度か「写真を撮らせてください」と言われたこともあるんですよ。



佐藤 真衣ちゃん(長沼)

こんにちは赤ちゃん

130



秋山 輝ちゃん(並木町)

スクスクのびのび

335

橋本 電力くん(4歳)中台
蓮ちゃん(0歳)

いっぱい外で遊んだから二人とも真っ黒になっちゃった。暑くても寒くても一緒に外で遊んだ。蓮は僕が歯みがきをしていると、いつもびっくりするくらいの勢いで突進してくるんだよ。歯みがきが好きなのかな？

